

甲斐市バイオマス産業都市構想



甲斐市

平成 27 年 7 月

目 次

第1章 地域の概要

1.1 対象地域の範囲	1
1.2 作成主体	2
1.3 社会的特色	2
1.3.1 歴史・沿革	2
1.3.2 人口	2
1.4 地理的特色	3
1.4.1 位置	3
1.4.2 地形	4
1.4.3 交通体系	4
1.4.4 気候	5
1.4.5 面積	5
1.5 経済的特色	5
1.5.1 産業別人口	5
1.5.2 事業所数	7
1.5.3 農業	7
1.5.4 林業	9
1.5.5 商業	9
1.5.6 観光	10
1.5.7 工業（製造業）	10
1.6 再生可能エネルギーの取組	11

第2章 地域のバイオマス利用の現状と課題

2.1 バイオマスの種類別賦存量と利用量	14
2.2 バイオマス活用状況及び課題	17

第3章 目指すべき将来像と目標

3.1 背景と趣旨	21
3.2 目指すべき将来像	23
3.3 達成すべき目標	25
3.3.1 計画期間	25
3.3.2 バイオマス利用目標	25

第4章 事業化プロジェクト

4.1 基本方針	28
4.2 重点プロジェクト	30
4.2.1 木質バイオマス発電プロジェクト	30

4.2.2 木質バイオマス公共施設熱供給プロジェクト.....	33
4.2.3 木質バイオマス熱供給農業振興プロジェクト.....	35
4.2.4 液肥・堆肥活用農業振興プロジェクト.....	37
4.3 その他のバイオマス活用プロジェクト.....	39
4.3.1 既存事業の推進.....	39

第5章 地域波及効果

5.1 経済波及効果.....	41
5.2 新規雇用創出効果.....	41
5.3 その他の波及効果.....	41
5.4 その他の地域波及効果の指標.....	42

第6章 実施体制

6.1 構想の推進体制.....	43
6.2 検討状況.....	45

第7章 フォローアップの方法

7.1 取組工程.....	47
7.2 進捗管理の指標例.....	49
7.3 効果の検証.....	50
7.3.1 取組効果の客観的検証.....	50
7.3.2 中間評価と事後評価.....	51

第8章 他の地域計画との有機的連携

8.1 その他の地域計画.....	53
8.2 バイオマス産業都市構想の位置付け.....	53

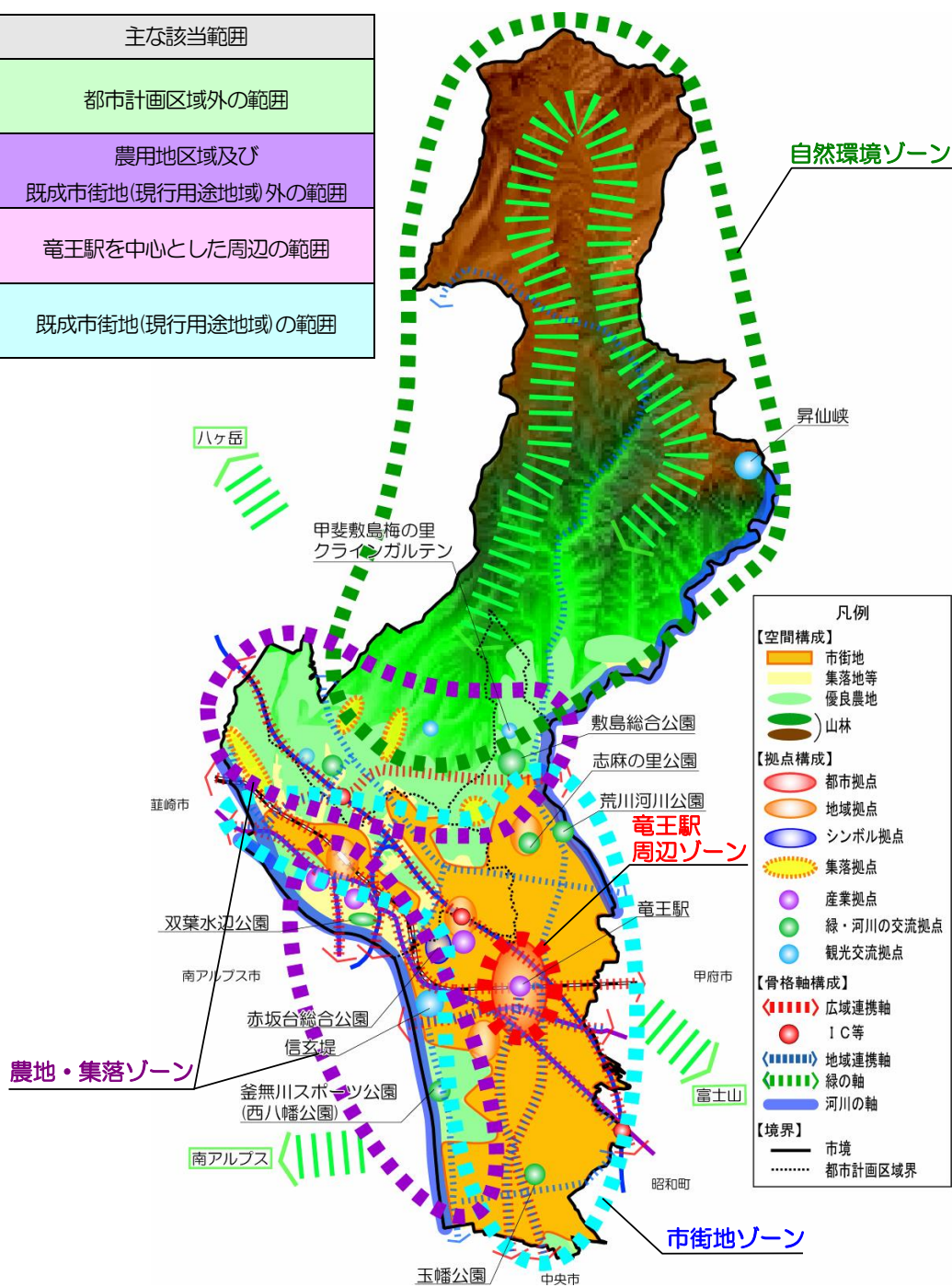
第1章 地域の概要

1.1 対象地域の範囲

本構想の対象地域の範囲は、山梨県甲斐市全域とします。

本市では、都市計画マスタープランの土地利用状況及び将来計画から、市域を自然環境ゾーン、農地・集落ゾーン、竜王駅周辺ゾーン、市街地ゾーンの4つにゾーンを分類しています。

ゾーン名	主な該当範囲
自然環境ゾーン	都市計画区域外の範囲
農地・集落ゾーン	農用地区域及び 既成市街地(現行用途地域)外の範囲
竜王駅周辺ゾーン	竜王駅を中心とした周辺の範囲
市街地ゾーン	既成市街地(現行用途地域)の範囲



出典：甲斐市都市計画マスタープラン

図 1 甲斐市の位置及びゾーン区分

各ゾーンにおいて発生・排出される主なバイオマスは、次表のように類型化されます。

表 1 ゾーン区分によるバイオマスの類型化

ゾーン	主なバイオマス
自然環境	木質バイオマス
農地・集落	農業系バイオマス
竜王駅周辺	生活及び産業由来の廃棄物系バイオマス
市街地	

1.2 作成主体

本構想の作成主体は、山梨県甲斐市とします。

1.3 社会的特色

1.3.1 歴史・沿革

本市は地理的な条件や日常の生活圏が隣接するため古くから様々な面で交流が盛んだった旧竜王町、旧敷島町、旧双葉町の3町の合併により、平成16年9月1日に誕生しました。

山梨県の北西部を流れる釜無川の左岸に広がる地域であり、南部は住宅地と農地が混在する平坦な市街化地域、北部は豊かな森林資源や自然景観を有する中山間地域と、異なった二つの顔を持っています。

度重なる釜無川の氾濫と、氾濫を鎮める人間の知恵と努力が肥沃な土壌を生んだ南部地域は、住宅地としてばかりでなく、今でも豊かな農作物を育くむ一方、情報技術系の産業集積地である「竜王赤坂ソフトパーク」が立地しています。また北部の森林地域は昇仙峡などの景勝地を有し、自然条件を利用した果樹栽培やワイン醸造など観光地としての特性も有し、南部・北部両地ともに、甲府盆地の文化・産業・歴史上重要な地域になります。

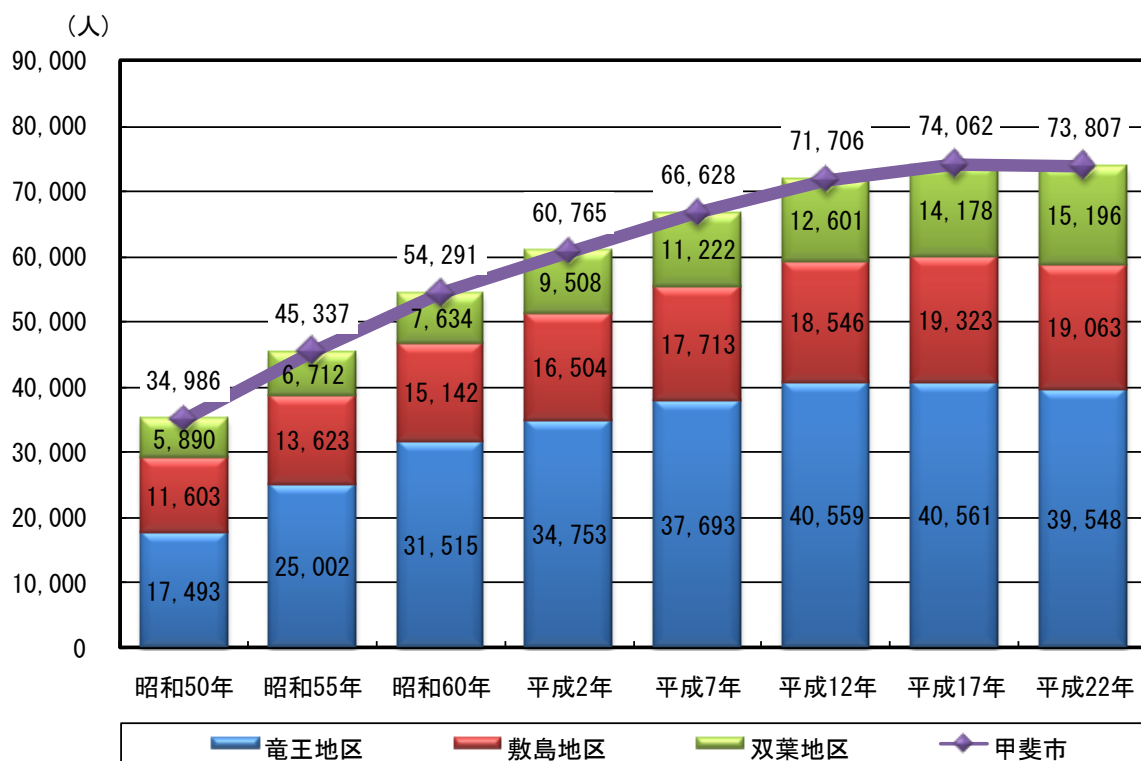
緑豊かな自然環境との調和を図りながら、活力にあふれ、穏やかで人にやさしいまちであるとともに、甲府盆地の新たな発展をリードする「緑と活力あふれる生活快適都市」の実現を目指して、住み良い郷土づくりを、誇れる郷土づくりを進めています。

1.3.2 人口

本市の人口は、平成22年(2010年)国勢調査によると73,807人(男性36,470人、女性37,337人)で、県内市町村では2番目に多い人口となっています。

人口推移は、昭和50年(1975年)から平成17年(2005年)までの間で連続して増加傾向にありこの間に2倍以上となりましたが、平成22年(2010年)の調査で初めて減少に転じました(平成17年比0.3%減)。

このまま人口の減少傾向が続くと、廃棄物系バイオマスの発生量についても減少傾向にあると推察されます。



出典：国勢調査

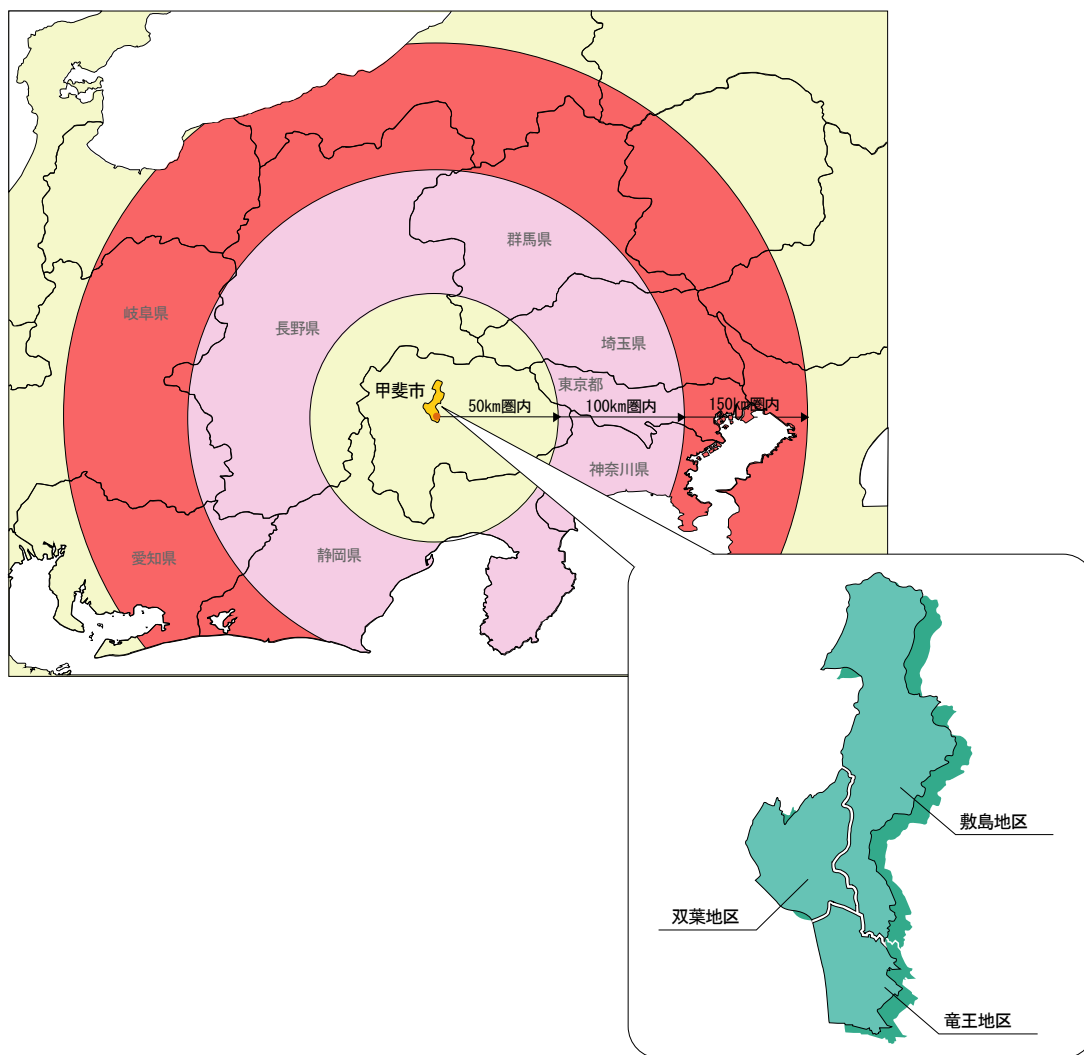
図 2 人口の推移

1.4 地理的特色

1.4.1 位置

本市は山梨県の中西部に位置し、北側は北杜市、南側は昭和町、東側は甲府市、西側は韮崎市・南アルプス市に隣接しています。

また、本市から 50km 圏内には県東部の一部を除いたほとんどの県域が入るほか、東京都、埼玉県、神奈川県、静岡県、長野県の一部が含まれます。100km 圏内には東京都の世田谷区付近までが含まれ、150km 圏内には、東京都、埼玉県、神奈川県、静岡県、長野県及び群馬県のほぼすべての区域が含まれます。



出典：甲斐市総合計画

図 3 甲斐市位置図

1.4.2 地形

本市の地形は、南北方向に細長く伸びた形（東西約 3 km、南北約 20 km）をしており、山地・丘陵地・台地・平地で構成されています。

市の北部は茅ヶ岳・曲岳・太刀岡山などの標高 1,700m 級の山々が連なる山地で占められており、中部は山地の裾野の標高 300～500m に丘陵地が広がり、南部は赤坂台地と甲府盆地の底部にあたる平地で形成されています。

河川は、市の東側には荒川、西側には釜無川が流れています。

1.4.3 交通体系

交通体系は J R 中央本線、中央自動車道、国道 20 号、国道 52 号で構成されており、県道と市道がこれらの幹線をつなぎ、道路網を形成しています。

また、近年では、中部横断自動車道の延伸や双葉サービスエリアのスマートインターチェンジ、新山

梨環状道路北部区間（調査、計画が進行中）及び茅ヶ岳東部広域農道など、市内外を結ぶ道路整備が進展し、道路交通の結末点として、重要な役割を果たしています。新山梨環状道路北部区間は中央自動車道に連結し、インターチェンジも建設される予定であり、バイオマスの集積地及び観光拠点としてはアクセス面で有利になると言えます。

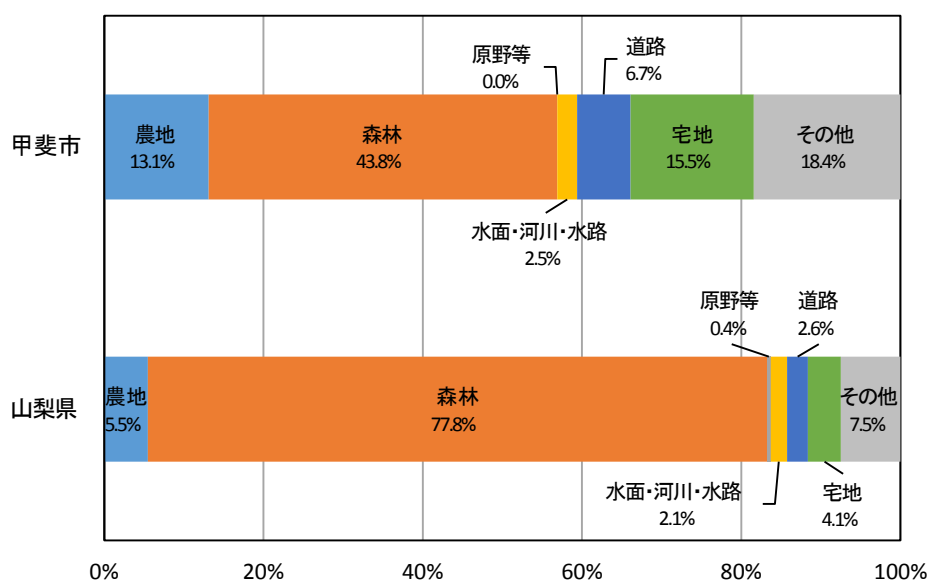
1.4.4 気候

本市が位置する甲府盆地の年間平均気温は 14.3℃、平均最高気温は 20.2℃で、平均最低気温は 9.5℃、また、年間降水量は 1,135.2mm、年間日照時間は 2,183 時間となっています。夏は気温が高く、冬は、朝晩の冷え込みが強い盆地特有の内陸性気候となっています。

1.4.5 面積

本市の総面積は 71.95km²であり、山梨県全体の 1.6%を占めています。

土地利用の割合を見ると、林地残材等の木質バイオマスを有する森林が 43.8%と最も多く占めています。また、森林に次いで宅地や農地が多くなっています。



出典：平成 25 年土地利用現況調査

図 4 土地利用状況（平成 25 年）

1.5 経済的特色

1.5.1 産業別人口

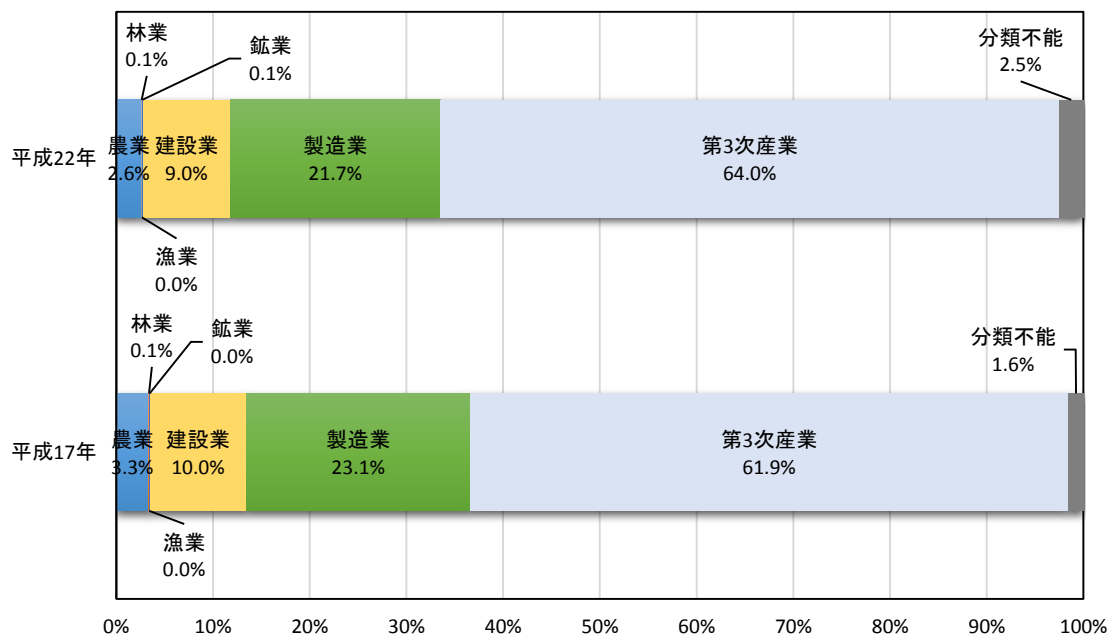
本市の産業別の就業人口は、第3次産業が最も多く 64.0%を占めており、次いで第2次産業が 30.8%、第1次産業が 2.7%となっています。

その推移を見ると、第1次産業は、平成 17 年には農業が 1,261 人（3.3%）だったものが平成 22 年に

は 937 人（2.6%）と減少しており、林業についても 29 名から 25 名（いずれも 0.1%）と微減しています。

また、第 2 次産業は、建設業が 3,783 人（10.0%）から 3,290 人（9.0%）、製造業が 8,698 人（23.1%）から 7,910 人（21.7%）といずれも減少傾向にあります。

一方、第 3 次産業は、23,304 人（61.9%）から 23,278 人（64.0%）と人口は微減しているものの割合としては増加しています。



出典：国勢調査

図 5 産業別就業人口の推移

表 2 産業別就業人口

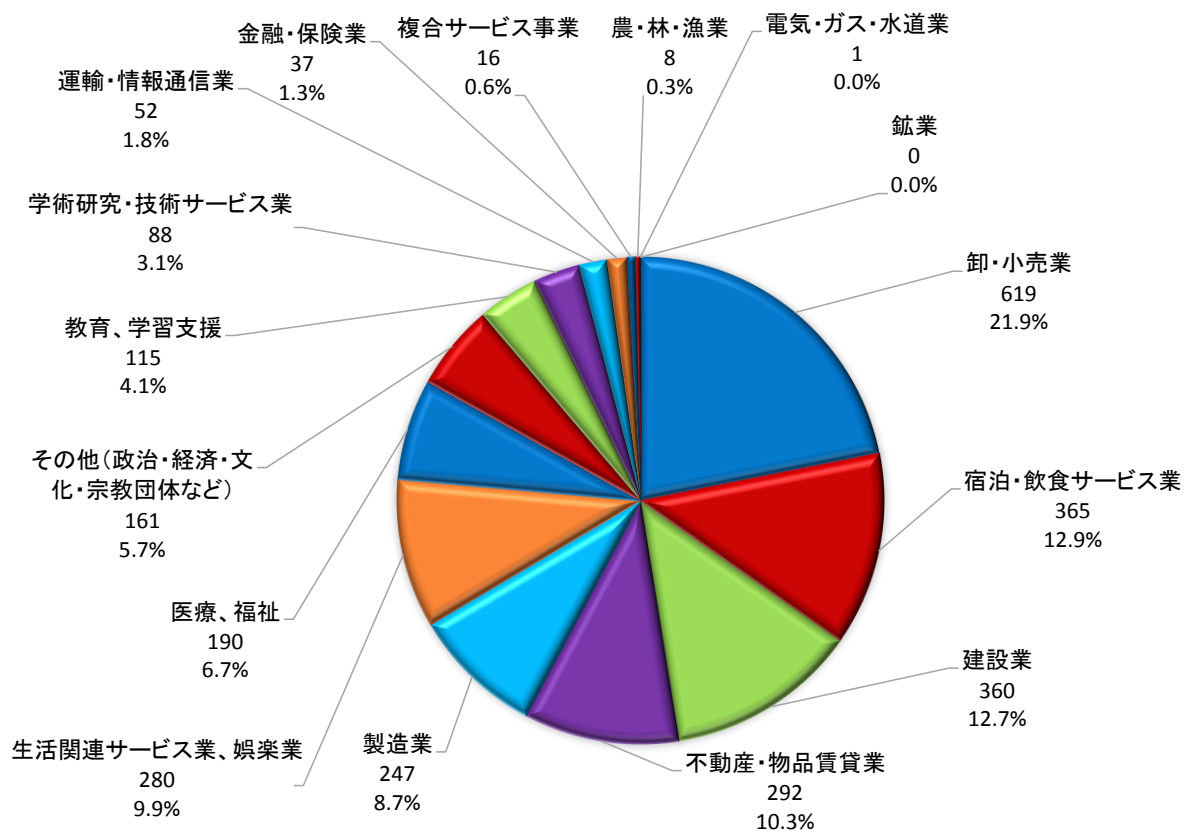
		平成 17 年		平成 22 年	
		人	比率	人	比率
第 1 次産業	農業	1,261	3.3%	937	2.6%
	林業	29	0.1%	25	0.1%
	漁業	1	0.0%	1	0.0%
第 2 次産業	鉱業	5	0.0%	16	0.1%
	建設業	3,783	10.0%	3,290	9.0%
	製造業	8,698	23.1%	7,910	21.7%
第 3 次産業		23,304	61.9%	23,278	64.0%
分類不能		587	1.6%	918	2.5%

出典：国勢調査

1.5.2 事業所数

本市の事業所数は、平成 24 年に 2,831 事業所あります。

産業大分類別の内訳を見ると、卸売業・小売業、建設業、宿泊業・飲食サービス業が多くなっており、建設発生木材や食品廃棄物系バイオマスが比較的多いと推察されます。



出典：平成 24 年経済センサス

図 6 業種別事業所数（平成 24 年）

1.5.3 農業

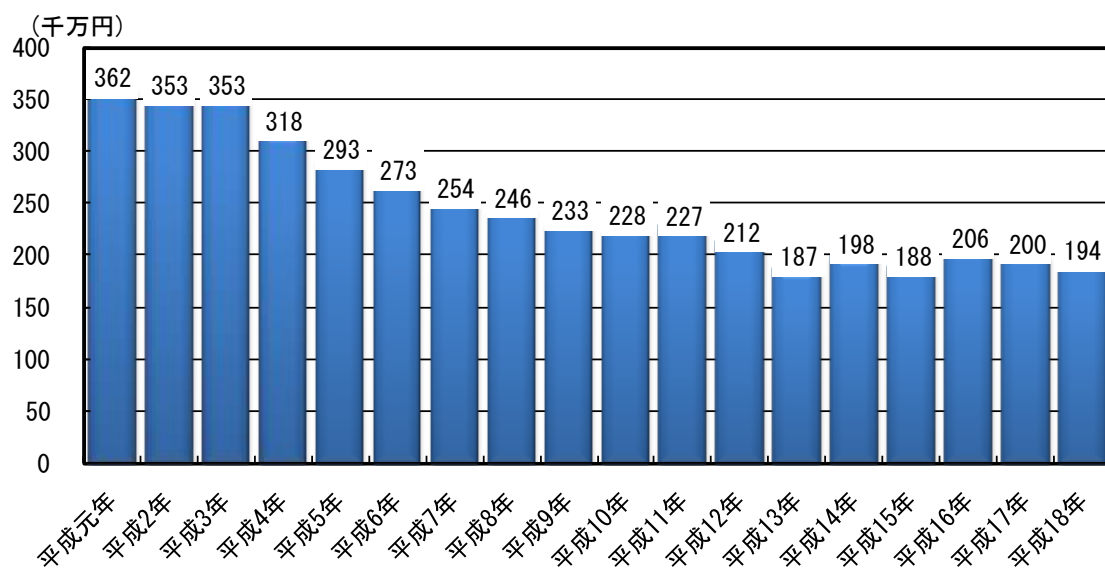
本市北部は、かつて養蚕業が栄えた地域として、今も多くの桑畑が残されています。

現在は、本市の農業産出額は減少傾向にあり、平成 18 年には 19.4 億円となっています。作物別収穫量は稲（水稻）が最も多く、果樹ではブドウ、野菜ではサトイモが多くなっています。

農業系バイオマスは、稲わら・もみがらや果樹剪定枝が比較的多く、発生量については減少傾向にあると推察されます。

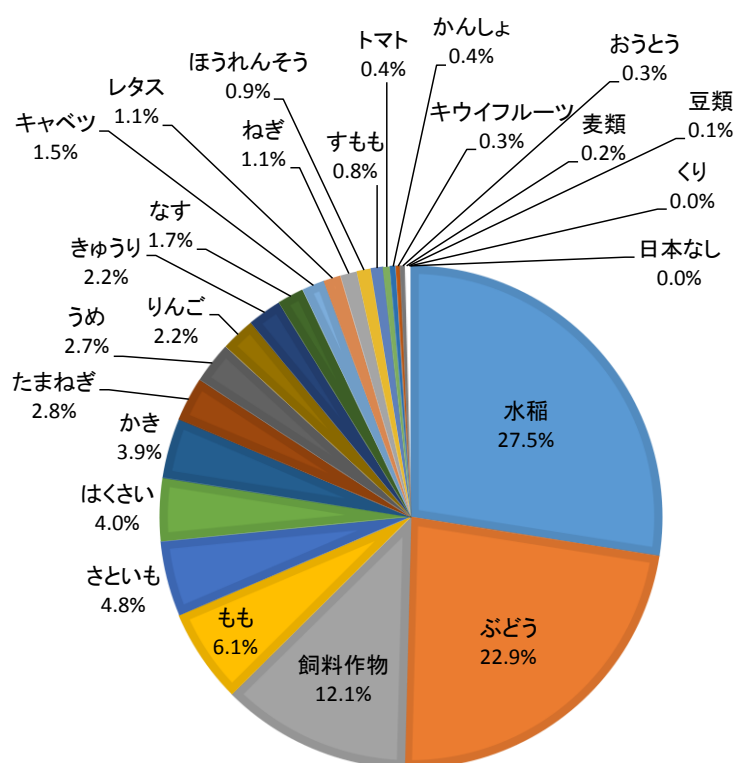


市内に残る桑畑



出典：生産農業所得統計

図 7 農業産出額の推移



出典：わがマチわがムラ（農林水産省HP）

図 8 作物別の収穫量割合